

# iGrafx による総合リスクマネジメントへの適応

コーレル株式会社 iGrafx事業部

## (1) iGrafxのリスクマネージメントに於ける利用価値

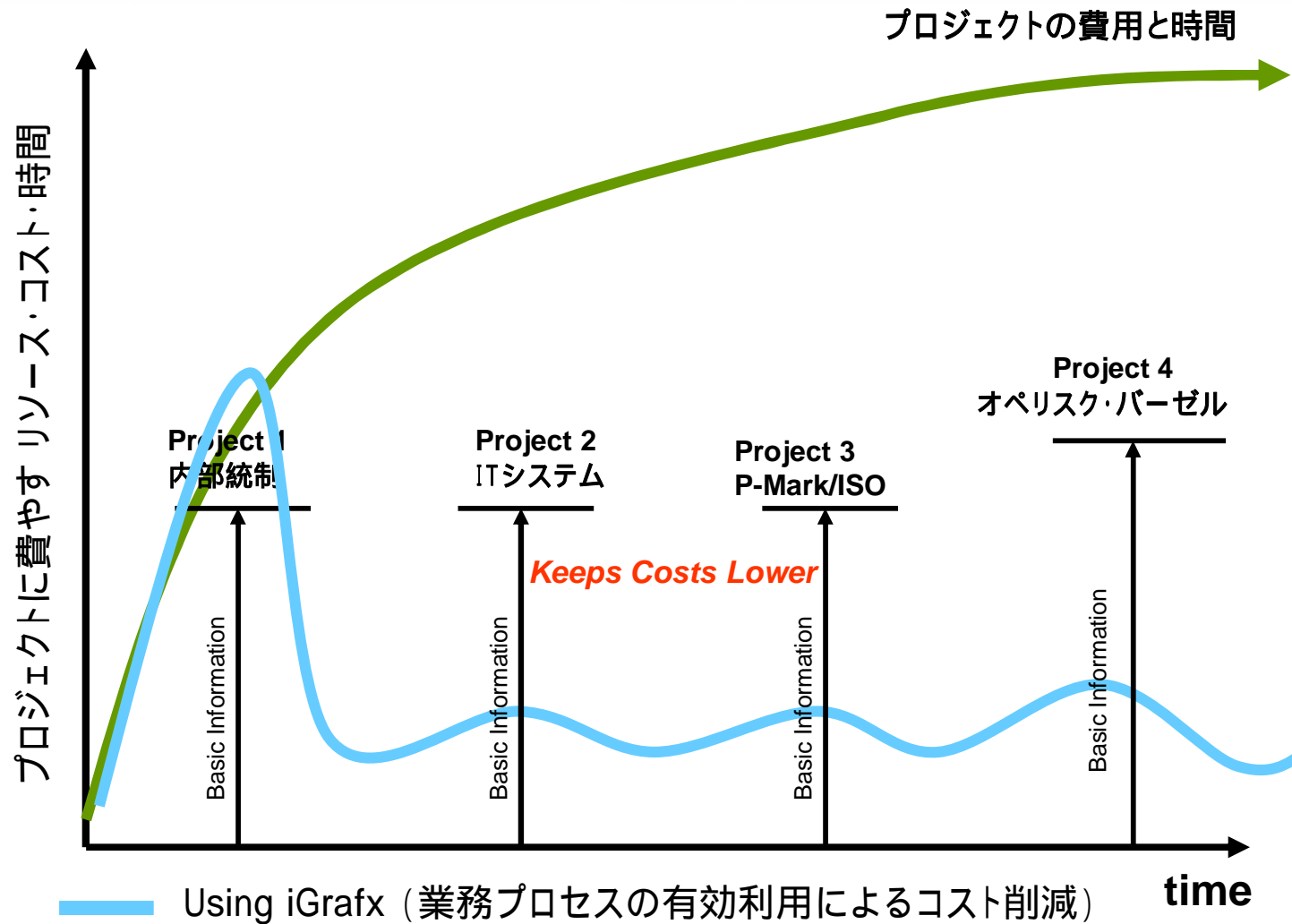
J-SOXのみでなく、ガバナンス・リスク管理・コンプライアンスの幅広い観点からiGrafxを有効活用する

各規制ごとに柔軟にiGrafxを活用する

規制に対して個々に対応するのではなく、業務プロセスを全社モデルと位置づけ、それを有効活用することで、費用の削減を行う

業務プロセスの可視化と改善の基盤が企業内に構築でき、BPM ( Business Process Management ) のPDCAサイクルが回るようになることで、企業価値が大幅に高まる。

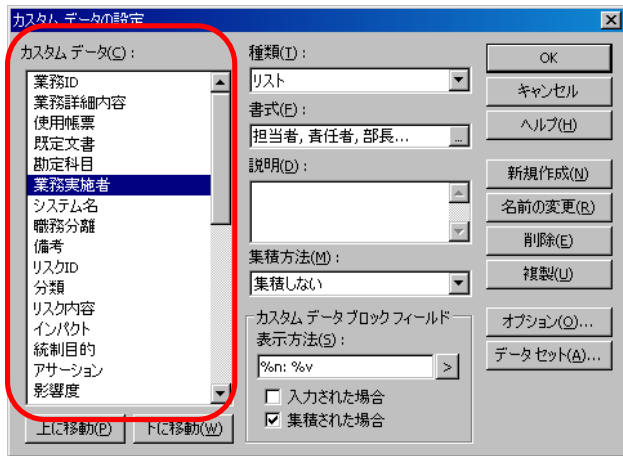
## (2) 業務プロセスを有効利用してプロジェクト毎の費用を削減する



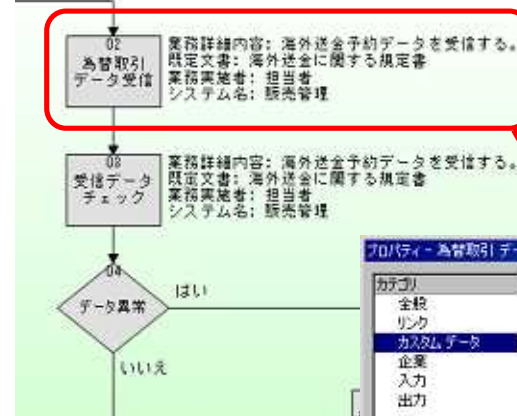
### (3) iGrafx のリスクマネジメントの機能と仕組み

パートナー様やお客様が簡単にリスク内容などを定義できる汎用的な道具

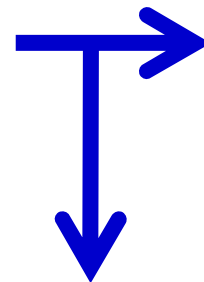
iGrafxで独自のプロパティを定義



業務(図形)毎にプロパティの値を設定

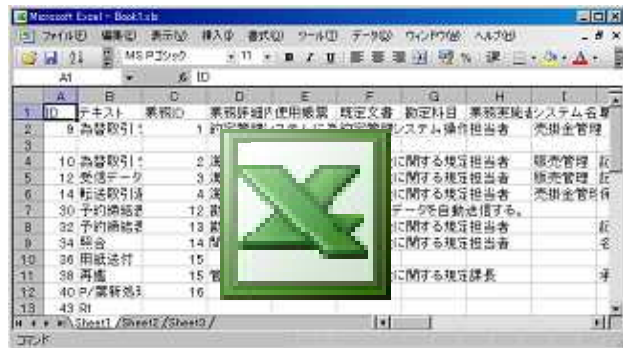


各業務に設定されたプロパティ値は図形の周囲に表示可能

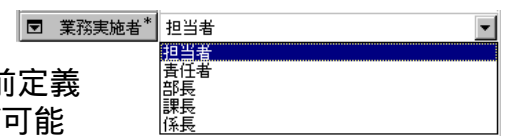


事前定義した属性は簡単にRやCなどの図に組み込める

- 規制に応じたリスク
- 規制に応じたコントロール



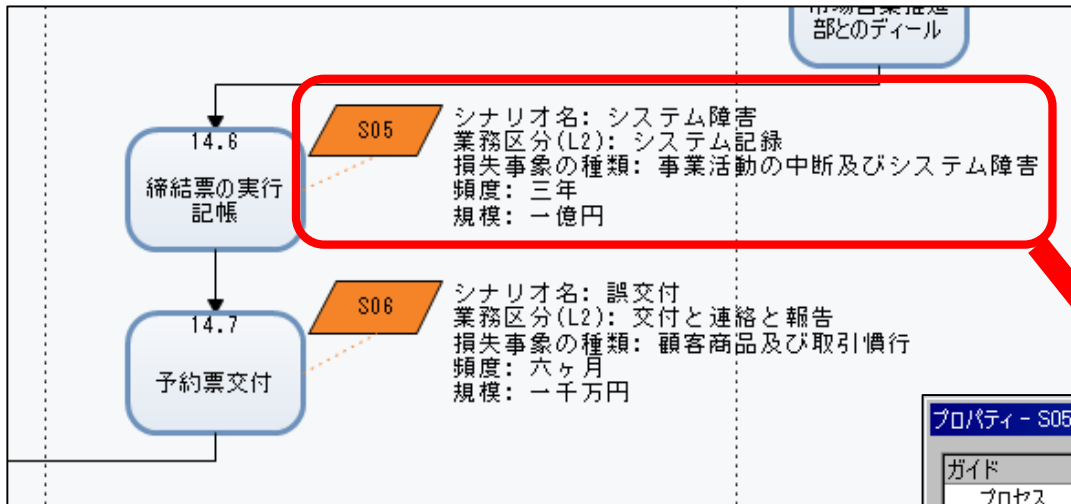
プロパティの値は事前定義した項目から選択が可能



設定された情報はExcelへ出力され、テンプレートなど、決められたフォーマットへ変換が可能

## (4) 銀行向けのオペレーショナルリスク管理での適応例

### オペリスク損失シナリオの属性定義項目を設定



プロセス図に損失シナリオ図形を配置し、  
損失シナリオの属性を事前に定義  
業務プロセスとリスクを特定してリスクの  
シナリオを明確にする

業務階層毎に事前定義したリストから値を選択

業務区分(L2)	システム記録
説明	
属性確認	
受領と点検	
交付と連絡と報告	
行内授受	
稟議と決定と権限	
約定と契約締結	
記帳と記入と作成	
<b>システム記録</b>	
期中管理	
保管と出し入れ	

プロパティ - S05

データセット(A): レベル2

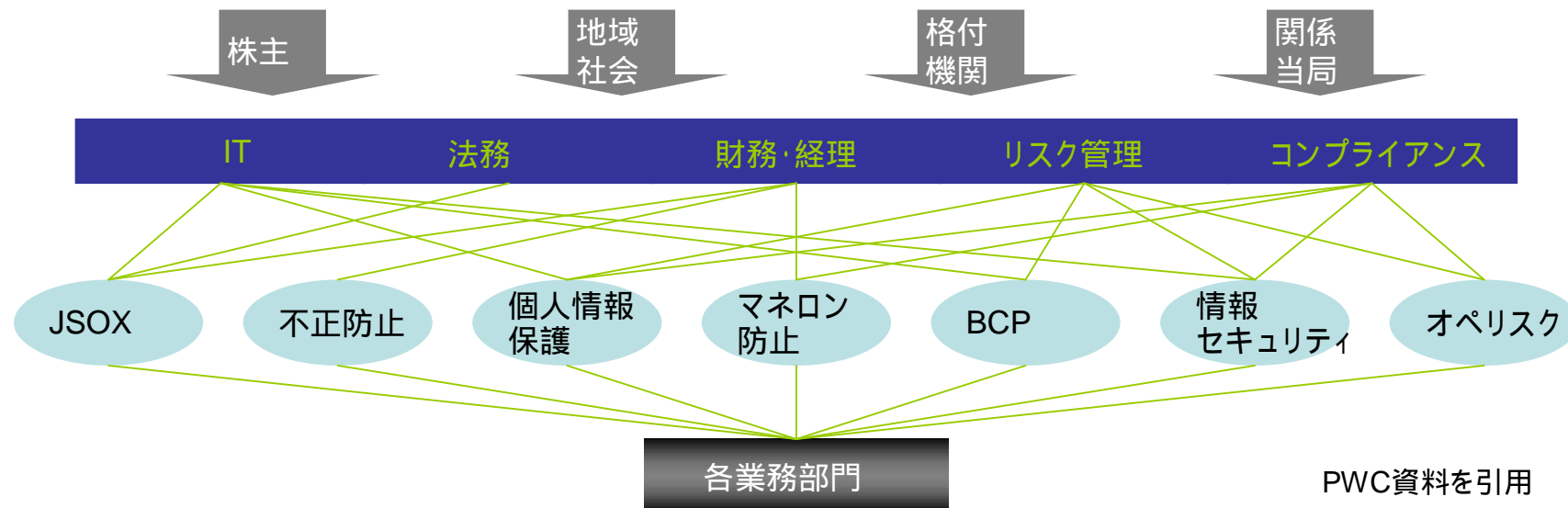
シナリオ名	システム障害
業務区分(L2)	システム記録
損失事象の種類	事業活動の中断及びシステム障害
頻度	三年
規模	一億円
CA手続きの整備*	1
CA手続きの内容*	0
CA処理権限_事前検証*	1
CA事後検証_発見*	0
CAシステム処理化*	0

設定(S)...

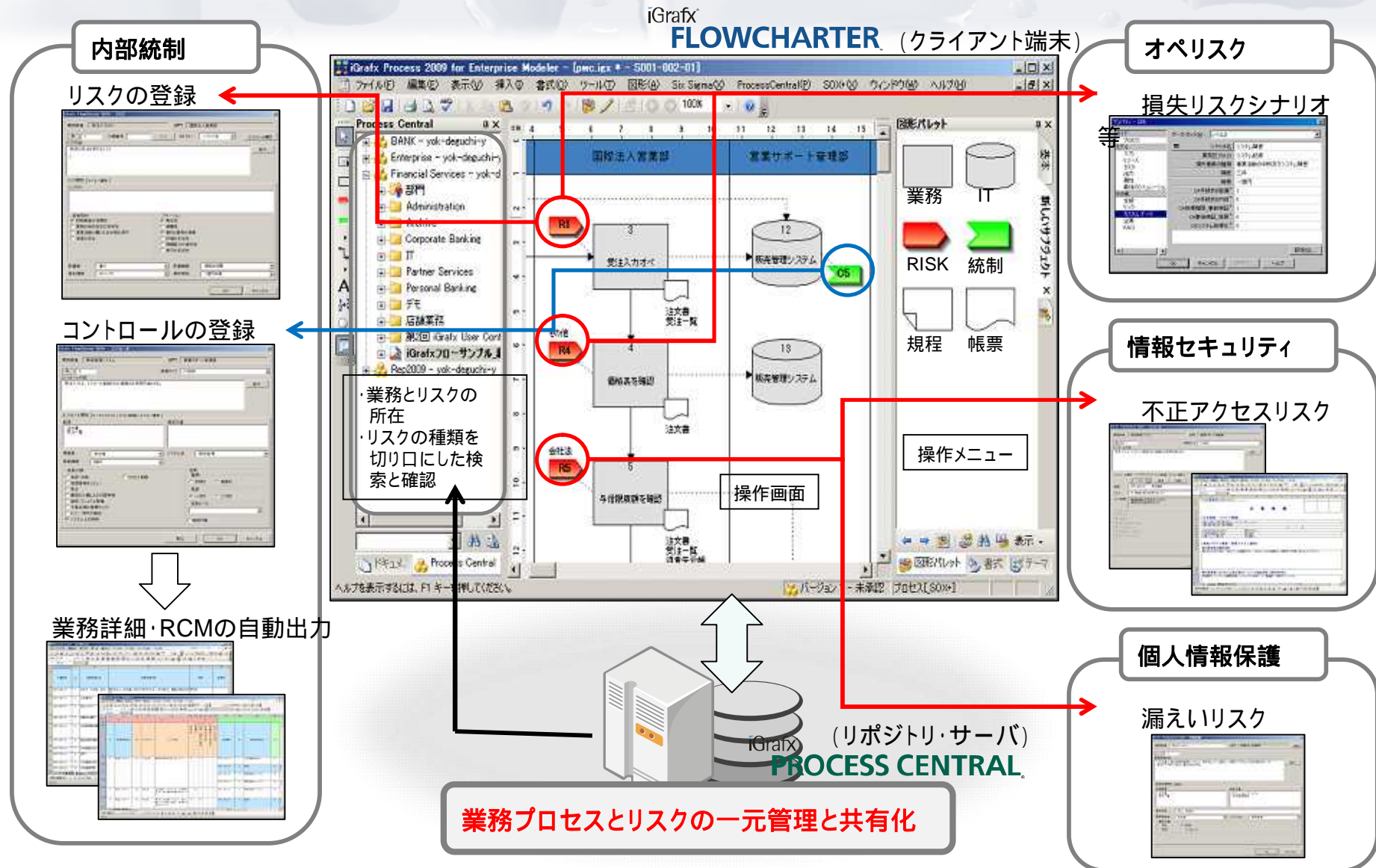
OK キャンセル 適用(A) ヘルプ

## (5) ガバナンス・リスク管理・コンプライアンスの統合的管理の必要性

- 近年、企業を取り巻く社会的な内部統制、リスク管理、コンプライアンスの強化の要請に対し、新たな所管部門の設置や既存部門の管理範囲の拡大・分担といった対応を行ってきた。
- その結果各部門の対応負荷やコストの増大を招いている。
- さらに、一旦対応を行ったとしても、新たな規制が導入された場合に、さらに対応が必要となり、結果として形成される内部統制、リスク管理態勢、コンプライアンス態勢の構築は、有効でない上に複雑なものになってしまっている例も見られる。
- このような状況に対し、規制に対し個別に対応するのではなく、ガバナンス・リスク管理・コンプライアンスの観点で広く統合的に対応する例が見られる



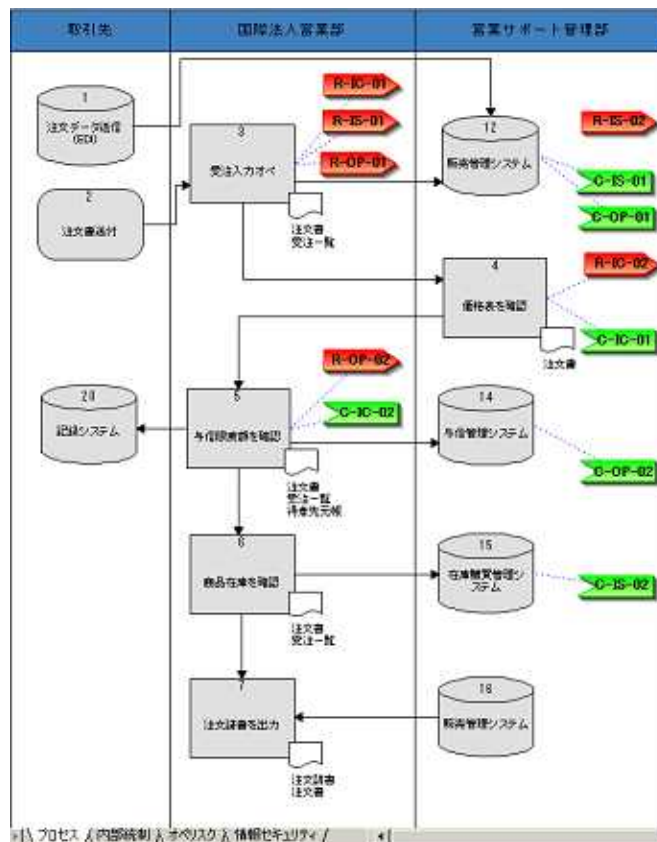
(6) iGrafxの統合リスク管理のイメージ



## (7) 各種のリスク定義

リスクやコントロールの種類や定義内容を自由に簡単に設定ができる

業務プロセスの全体リスク表示



RとCのカテゴリー別表示



(J-SOX 内部統制)



(オペレーショナルリスク)

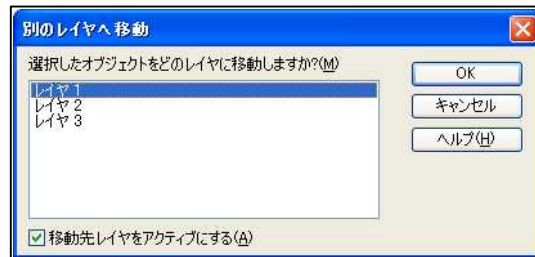


(情報セキュリティー)

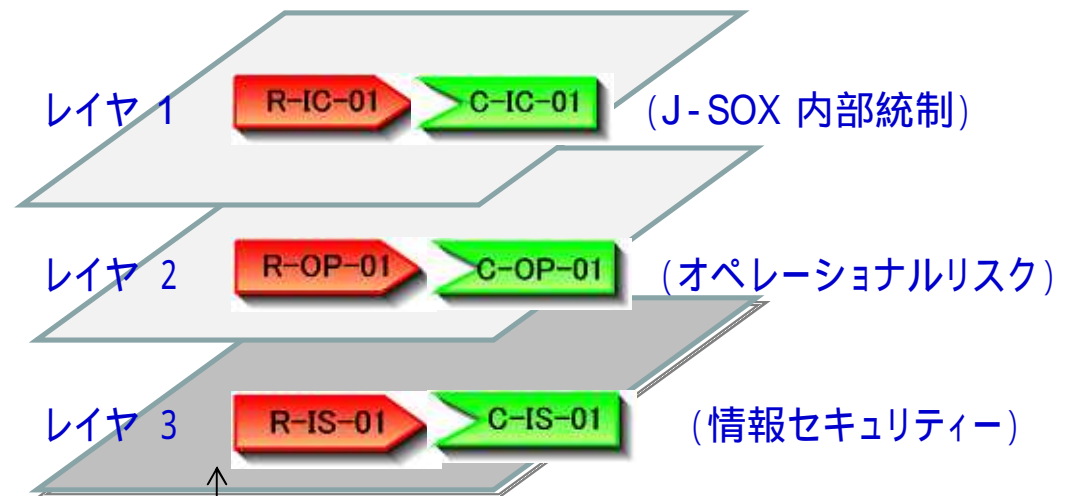
## (8) 必要なリスクを階層的に管理

レイヤで管理された規制項目ごとのリスクとコントロールを自由に引き出す

### レイヤ選択画面



### 受注入力業務プロセス

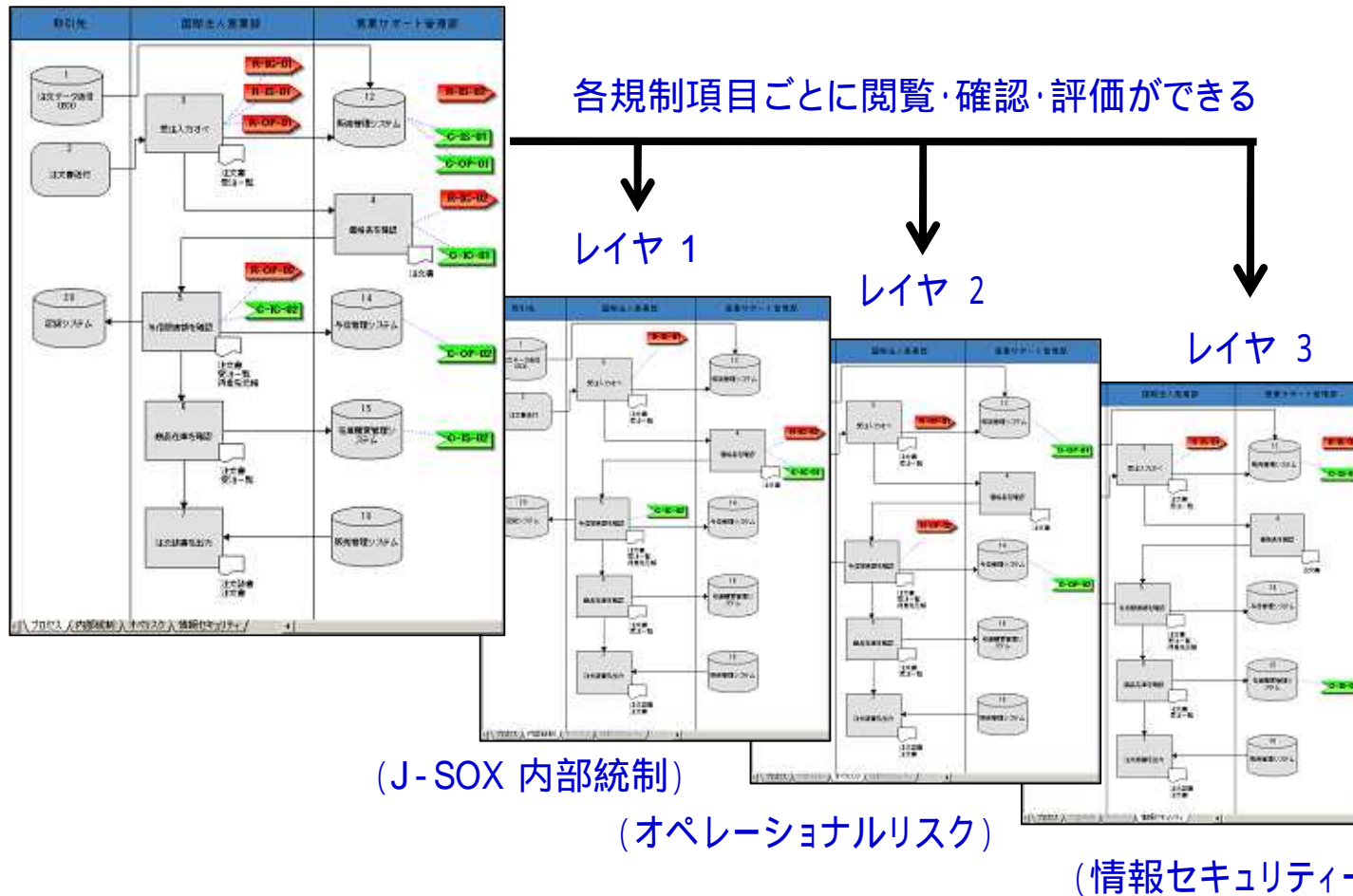


アクティブレイヤ (レイヤ3)

(9) 統合的な業務プロセスとリスク/コントロールの関係

規制目的に応じ評価・確認したい業務プロセスとリスク/コントロールの関係を可視化する

「受注入力」の業務プロセス



## (10) 統合的な業務プロセスとリスク/コントロール管理の利点

- ・ 市場や企業環境の変化に応じてダイナミックに変わる規制やリスクに素早く対応できる環境が作れる。
- ・ 簡単で使いやすいツールを利用することで、現場参画型のリスク管理が可能となりモチベーションを持った管理環境が構築できる。
- ・ 可視化された業務プロセスやリスクの所在などを全社的に共有することが可能となり、作業の品質が飛躍的に高まる。
- ・ 全社的で統合化された環境が整うので、内部統制、オペレーションリスク、ISOなどその規制ごとに個別に行われていた重複作業を大幅に削減することができる。その結果としてコストダウンに繋がる。
- ・ 全社的なガバナンスやリスク管理の観点から業務の管理が可能となる。また、逆に内部統制やオペリスクなど、各プロジェクトに応じたリスク、及び社内規定や法規定が一元化された情報から簡単に閲覧や管理ができる。
- ・ 最終的に業務プロセスの可視化と改善の基盤が企業内に構築でき、BPM ( Business Process Management ) のPDCAサイクルが回るようになることで、作業の重複や属人化された作業が激減し企業価値が大幅に高まる。

本資料に関するお問い合わせは  
コーレル株式会社 iGrafX 事業部までお願いします

[igrafxjapan@igrafx.com](mailto:igrafxjapan@igrafx.com)

TEL: 090-6497-3941

